

表-3 所定の变形角での荷重

		S-1	各特性値の説明
H	mm	2590	変位計H1、H2間の距離(mm)
V	mm	4320	変位計V1、V2間の距離(mm)
$P_{1/450}$	kN	3.7	変形角=1/450の際の荷重(kN)
$P_{1/300}$	kN	5.2	変形角=1/300の際の荷重(kN)
$P_{1/200}$	kN	7.3	変形角=1/200の際の荷重(kN)
$P_{1/150}$	kN	9.1	変形角=1/150の際の荷重(kN)
$P_{1/100}$	kN	12.4	変形角=1/100の際の荷重(kN)
$P_{1/75}$	kN	15.5	変形角=1/75の際の荷重(kN)
$P_{1/50}$	kN	18.4	変形角=1/50の際の荷重(kN)

表-4 各特性値と短期基準せん断耐力算定結果

		S-1	各特性値の説明
H	mm	2590	変位計H1、H2間の距離
V	mm	4320	変位計V1、V2間の距離
$P_{max}$	kN	27.2	最大荷重
$\delta(P_{max})^{※1}$	rad	0.051	最大荷重時のみかけのせん断変形角: $\delta$
$0.1P_{max}$	kN	2.7	最大荷重の1/10
$\delta(0.1P_{max})$	rad	0.002	最大荷重の1/10時の $\delta$
$0.4P_{max}$	kN	10.9	最大荷重の4/10
$\delta(0.4P_{max})$	rad	0.008	最大荷重の4/10時の $\delta$
$0.9P_{max}$	kN	24.5	最大荷重の9/10
$\delta(0.9P_{max})$	rad	0.033	最大荷重の9/10時の $\delta$
$P_y$	kN	16.6	降伏耐力
$\delta_y$	rad	0.015	降伏変形
$\delta_u^{※2}$	rad	0.069	終局変位
K	kN/rad	1117.5	初期剛性
$P_u$	kN	24.9	完全弾塑性モデルの終局耐力
$\delta_v$	rad	0.022	完全弾塑性モデルの降伏点変位
$\mu$	-	3.10	塑性率(= $\delta_u / \delta_v$ )
$D_s$	-	0.44	構造特性係数(= $1/\sqrt{2\mu-1}$ )
$P_y$	kN	16.6	
$P_u \times (0.2/D_s)$	kN	11.4	
$2/3P_{max}$	kN	18.1	最大荷重の2/3の時の荷重
$P_{1/120}$	kN	10.8	変形角が1/120の際の荷重
備考			

※1 変形角が1/15rad(≈0.067rad)を超えて最大荷重となる場合は、 $\delta(P_{max})=1/15rad$ での荷重を $P_{max}$ とする

※2 試験終了時の変形角が1/15radを超える場合は、 $\delta_u=1/15rad$ とする

(各特性値に関する詳細は、財団法人日本住宅・木材技術センター編「木造軸組工法住宅の許容応力度設計」第2章「木造軸組工法住宅の各部要素の試験方法と評価方法」を参照)

表-5 壁倍率の算定

種別	$P_a$ (kN) <sup>※1</sup>	壁長(m) <sup>※2</sup>	壁倍率 <sup>※3</sup>	備考
スギ製材	10.8	4.32	1.2	試験体数:1のため ばらつき係数を考慮せず

※1  $\alpha=1$ として算出

※2 壁長は、両柱の芯-芯距離を示す。

※3 小数点第2位以下を切り捨て

※ 本成績書の一部転載はしないでください。